

## ご挨拶

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、  
厚く御礼申し上げます。  
このたび「とらすと通信」をお届けするにあたり、  
謹んでご挨拶申し上げます。



平成29年度上半期の我が国の経済環境をみますと、雇用環境の改善が続いたことに加えて、個人消費は伸びを続け、円安や海外景気回復によって企業収益が高い水準を維持するなど、明確な景気回復の動きがみられた一方、消費者物価は鈍い動きを続けました。

海外では、米国が堅調な景気回復を続けるとともに、米連邦準備制度理事会(FRB)のバランス・シート縮小が決定され、北東アジアにおける地政学的リスクへの懸念が高まり、引き続き不透明な情勢が続いています。

当グループでは、今年度から、内外の金融情勢や経営環境の変化を踏まえ、「ビジネスモデル変革」「コーポレートガバナンス変革」「フィデューシャリー・デューティー、利益相反管理の高度化」に三位一体で取り組む、新中期経営計画「第2の創業」をスタートしています。平成29年度上半期は、その着実な遂行に努め、収益構造の転換と事業ポートフォリオの多様化を通じた成果の発現に注力してまいりました。

その結果、平成29年度中間期の連結業績につきましては、実質業務純益は1,266億円、親会社株主に帰属する中間純利益は754億円となりました。

前年同期との比較では、三井住友信託銀行の手数料関連

利益および市場関連利益の減少等により実質業務純益、親会社株主に帰属する中間純利益ともに減益となりました。一方で、グループ連結ベースの期初公表予想との対比では、親会社株主に帰属する中間純利益は通期1,500億円に対し50%の進捗と、概ね順調に推移しました。

なお、中間配当金につきましては、1株につき65円とさせていただきます。

平成29年度下半期も、不透明・不確実な経済環境が続くとみられますが、私どもは、現下の厳しい環境を自らの新たな成長の好機と捉え、得意とするトータルソリューション力の強化に一層の磨きを掛け、グループ全社を挙げて「第2の創業」のスピードアップを図る所存です。

皆さまにおかれましては、引き続き温かいご支援を心からお願い申し上げます。

平成29年12月

取締役執行役社長

大久保 哲夫